



1



2



3

- 1 整備が進む復興まちづくりセンター周辺の今後の姿を図面にして把握
- 2 吉海さんが作ったオープンラボの看板
- 3 1の図面が模型に進化。4月16日のオープンラボでは、模型を見ながらさまざまな意見が交わされました。

協力隊です

4月1日から、新たに地域おこし協力隊として、復興まちづくりセンターにじいろを拠点に活動している2人を紹介します。

益城町の皆さんと より近い関係に

よしかいゆうた
吉海雄大さん



熊 本地震の時、熊本大学大学院生だった私は、2016年10月から秋津川河川公園内に整備された「ましきラボ」の企画・運営などで益城町に携わり、今年3月まで大学の研究員を務めながら、復興に関する研究や取り組みを続けてきました。復興まちづくりセンターができたことを機に、現場に入り住民や行政の方々とより近い関係で、いろんなことを実践していければと思いつきました。

ましきラボで毎週土曜日開催してきた「オープンラボ」は、4月2日から復興まちづくりセンターに場所を移し、現在も続けています。これまではラボの幹事として、主に相談に来られる方と対話してきましたが、今後は地域おこし協力隊として、より地域に根強く活動していきたいです。

これまで何度も、町に足を運んでいましたが、日中長い時間滞在することで、見えてくるものが違います。住民の皆さんが実現したいと思うことを具体化するお手伝いをして、「何かしたい時に背中を押してくれる」、「この人たちに聞けば町のことがよく分かる」という存在になればと思っています。